

技術で未来拓く

(275)

—産総研の挑戦—

機械処理に対応

地盤の特性や火山・活断層の情報などの地質情報は、ハザードマップ作成や地質災害対策、土木建設を行う上で必須な基礎データである。産業技術総合研究所（産総研）は、こ

れまでに地質図をはじめとする多様な地質情報の整備に取り組んできた。また、これらの地質情報が社会で活用されることを目指し、地質図や地質データベースなどをインターネット上で公開することにより、地質情報の普及を図ってきた。

社会においてデジタル変革（DX）に向けた動きが進んでいる。災害対応のためのシステムや都市のデジタルツインなどの実現においても、機械処理（コンピュータによるデータ処理）による情報活用がますます重要と進められている。地質

なっている。

しかし、これまでに提供されてきた地質情報は機械処理に対応するのために十分なもので

はなかった。地質情報の整備をミッションとする産総研としては、機械処理に対応した地質情報の整備と提供が重要な課題となる。

データ整備

さまざまな分野で、データの相互利用に向けた連携基盤の整備が活用がますます重要と進められている。地質

地質情報流通で安全を

データ連携で真価発揮

情報をこれらに連携させるため、産総研では機械処理が可能なデータを提供するための準備を整備している。

一例として、地盤のターが読み込んで処理できるデータ形式であるベクトルデータを提供している。また、印刷物にできない地質図については、印刷された画像をベクトルデータ形式へ変換している。

さらに、位置情報や地層分類を基に、地質図を地層の各種特性を取り出して利用できる。これが実現すれば、地域ごとの地質特性を考慮した情報処理が、さまざまな分野のサービスなどの開発が可能となる。

安全安心に貢献

安全安心に貢献。すべての人の生活の安全に役立ち安心をもたらすように、これまで

（木曜日に掲載）

安心・安全な生活のためのデータ流通



産総研
地質情報基盤センター
整備推進室室長

内藤 一樹



プロフィール

ウェブ技術を使った地質情報の発信に従事。地質図公開のためのウェブアプリも作成。学生や市民などへ利用者の裾野を広げたい。あらゆるデータがリンクした情報空間を実現するLinked Open Data (LOD) に魅力を感じ、時間を見つけては地質情報のLOD化に取り組んでいる。